

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：32206  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2013～2015  
 課題番号：25463439  
 研究課題名(和文) 腹腔鏡下胃癌切除術患者の多職種連携による退院支援システムの開発・実践・評価  
  
 研究課題名(英文) Development, implementation, and assessment of a discharge support system based on multidisciplinary care for patients who have undergone laparoscopic gastric cancer resection  
  
 研究代表者  
 糸井 裕子 (ITOI, YUKO)  
  
 国際医療福祉大学・保健医療学部・教授  
  
 研究者番号：20383094  
  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、がん医療における多職種連携を基盤にがん患者の適応支援、症状緩和によりQOLの向上を目指すものである。特に早期に退院し社会復帰することが可能な腹腔鏡下胃切除術を受けたがん患者の社会復帰による問題を明確にし、対応策を多職種で開発した。この対応策や情報をホームページで公開し支援している。支援は、医師、看護師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカー等で行っている。また、がん患者による相互支援を助けるためにWEB版サバイバーシップも運営している。そして、ホームページ利用者の活用頻度とQOLの関連を調査しアウトカムを評価した。

研究成果の概要(英文)：The present study aimed to improve the quality of life (QOL) of cancer patients through adjustment support and symptom alleviation based on multidisciplinary cancer care. In particular, we clarified the issues associated with social reintegration in post-laparoscopic gastrectomy cancer patients who have been discharged early and are able to reintegrate into society, and developed measures using a multidisciplinary approach. The developed measures and information have been shared on our website, and support is being provided by physicians, nurses, nutritionists, physical therapists, social workers, and other personnel. In addition, we operate the online version of SurvivorSHIP in order to promote mutual support among cancer patients. We also investigated the relationship between frequency of use and QOL among users of the website, and assessed the outcomes.

研究分野：がん看護

キーワード：腹腔鏡下胃切除術 がん患者 働く世代 IT 多職種連携 ピアサポート ホームページ がん看護

### 1. 研究開始当初の背景

がん対策基本法(平成18年法律第98号)に基づき、がん対策推進室は、平成24年度から平成28年までの5年間を対象にして、重点的に取り組む課題に「チーム医療」「働く世代へのがん対策の充実」等の推進を示している。

最近、先端治療である腹腔鏡下胃切除術は、早期に社会復帰(鈴木ら,2013)を希望する人たちにとっては、ニーズの高い治療であるが、短期間で退院するため、退院後に消化器症状や食事の問題を抱えている。しかし、入院から社会復帰・継続に至るシームレスな支援に関する看護学分野の研究は不十分であり退院システム構築は遅れている。

### 2. 研究の目的

(1) 腹腔鏡下胃切除術を受けた、働く世代のがんサバイバーの職場復帰と継続における問題を特定化する。

(2) 特定化された問題を多職種およびがんサバイバー、研究組織によりカンファレンスおよびワークショップを開催し解決策を作成する。

(3) 特定化された問題の解決策を入院から職場、地域においてシームレスに対応できるシステムの開発に向け、国際医療福祉大学三田病院のホームページにWEB相談サイト、WEB版サバイバーシップの立ち上げおよび相談窓口の運用を行う。

(4) WEBサイトおよび新相談窓口を運用し、がんサバイバーのQOL評価尺度により効果を明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 腹腔鏡下胃切除術を受けた、働く世代のがんサバイバーの職場復帰と継続における問題を、患者・家族に質的研究手法にて特定化する。

(2) (1)で特定化された問題を多職種とのカンファレンスおよびワークショップにより解決策を作成する。

(3) (2)で特定化された問題の解決策を入院から職場、地域においてシームレスに対応できるシステムの開発に向け、国際医療福祉大学三田病院のホームページにWEB相談サイト、WEB版サバイバーシップの立ち上げと相談窓口の運用を行う。

(4) (2)(3)の実践を行い、がんサバイバーのQOL評価尺度により効果を明らかにする。

研究デザイン: WEBサイト視聴による前後比較による検証

対象者: 胃がんで切除術(腹腔鏡下胃切除術含む)を受けた患者約10名程度

調査内容: 1回目: 退院後の最初の外来受診時に、基本属性、日本語版EQ-5D-5L(QOL尺度)についてアンケートに回答してもらう。WEBサイト視聴: 術後30日から術後90日目まで、WEBサイトを視聴してもらい、日常生

活を送ってもらいWEBサイトのホームページについてのアンケートに回答してもらう。2回目: 術後91日目に、日本語版EQ-5D-5L(QOL尺度)に回答してもらう。また、追加の基本属性に回答してもらい返信用封筒を用いて投函してもらう。

### 4. 研究成果

(1) 腹腔鏡下胃がん切除術を受けたがんサバイバーの職場復帰と継続における問題の特定

腹腔鏡下胃がん切除術を受けた、働く世代のがんサバイバーの職場復帰と継続における問題を特定する目的で、平成25年6月~9月の期間に49名の対象者にインタビュー調査を行った。このうち9名の働く世代のがんサバイバーの職場復帰と継続における問題として「疲労感と生活」「胃がん治療後のストレス」「食事に関する問題」「消化器症状に関する問題」の4カテゴリ、治療後の社会生活にストレスがある等23サブカテゴリが明らかになった。腹腔鏡下胃切除術を行い早期に退院するがんサバイバーの社会復帰における問題の中で、先行研究では十分明らかにされていなかった治療後の社会生活にストレスがあるが抽出された。

サブカテゴリ 仕事に集中できない 昇進に対する不安がある 他人にがんが知られる不安がある は、対象者の多くが職業を持っていることが背景にあり、かつ同病の家族の心配がある 生活への夫婦間のせめぎ合いがある や 吻合部の離開への不安がある は、家族の中で経済的責任の中心を担うという点でストレスになっていると考えられる。

また、死に対する不安がある の価値観がよりストレスを高めていると考えられる。

(2) 腹腔鏡下胃切除術を受けたがんサバイバーの問題に対する解決策の作成

特定化された問題を多職種およびがんサバイバー、研究組織によりカンファレンスおよびワークショップを開催し解決策を作成した。まず「胃がん切除術患者の社会復帰における多職種連携~患者さんとともに社会復帰の支援策を考える~」をテーマに開催した。講演は、医師、看護師、産業保健師、社会復帰している患者(2名)、管理栄養士が行い、ワークには、理学療法士、薬剤師、ケースワーカー、患者18名が参加し、問題と解決策について検討した。次に「患者さんとともに社会復帰の支援策を考える」をテーマにワークショップを開催し、解決策を見出した。

(3) 腹腔鏡下胃切除術を受けた患者の社会復帰に伴う問題に対する解決策の情報発信

平成25年に実施した調査であきらかになった、腹腔鏡下胃切除術を受けた患者の社会復帰に伴う問題に対して、平成26年は、医師、看護師、保健師、管理栄養士、理学療法士、ケースワーカー等の多職種で、調査で明らかにした問題や疑問についてカンファレ

ンスを開催し検討し、「生活習慣編」「ストレス対処編」「症状対処編」「疲労感への対処編」「食事対処編」「仕事復帰に向けた対処編」として解決策を整理した。

この解決策を「国際医療福祉大学 IPA - GP (Inter Professional Approach to Gastrectomized Patients)」による「胃がんの手術をされた方をさまざまな専門職でサポート・あなたの社会復帰に向けて一緒に課題を考えます」というホームページ <http://www.uhw.ac.jp/ipagp/index.html> を開設し、平成 26 年 11 月に公開した。

同じような悩みや経験を持つ仲間による支え合いの場を支援する目的で「WEB 版サバイバーシップ」をホームページ内に加えて、投稿されたがんサバイバーの体験談を掲載した。

2013 年テーマ「胃切除術後における食事と運動の多職種連携によるサポート」および 2014 年テーマ「患者さんとともに社会復帰の支援策を考える」で実施したワークショップにより「胃切除術後に減った体重を増やしたい(患者・家族・多職種によるディスカッション)」「胃切除術後の嘔吐(患者・家族・多職種によるディスカッション)」「胃切除術後の便秘(患者・家族・多職種によるディスカッション)」「職場復帰後の職場での取組(患者・家族・多職種によるディスカッション)」「食事と運動を促進する生活の仕方(看護師)」「術後の回復に向けての運動(理学療法士)」「食事と栄養(栄養士)」「胃切除術後に食事量が増えない理由(医師)」「胃切除術後患者の経時的栄養指導の実際(栄養士)」「胃切除術後の職場生活に適應するための工夫と課題(がんサバイバー)」「胃切除術後の社会生活を楽しむために(がんサバイバー)」「がん患者の職場における健康管理の現状と課題(産業保健師)」「胃切除術後患者の社会復帰における問題点～インタビュー調査の結果から～(看護師)」「胃切除術後障害の概要について(医師)」「胃切除術後のチーム医療(医師)」の映像をホームページ上で「You Tube」形式でホームページに公開した。

ホームページには、相談窓口の紹介として、「病院医療相談窓口のご案内」「がん支援センター相談窓口のご案内」「胃切除術後患者様向け食事の宅配」の 4 点および「がん関連情報リンク」情報を公開した。

(4) ホームページ公開を周知するための活動

「情報カード」を作成し、病棟および外来に設置し、胃を患ったがんサバイバーに提供し周知した。

国際医療福祉大学院公開講座乃木坂スクールにて「看護ケアの本質～その基礎と最新の実践知を学ぶ～」のプログラムの 1 つとして「胃がん患者に関する研究と地域貢献」について講演し研究活動をアピールした。

2015 年(平成 27 年)6 月 7 日日曜日に下野新聞に「胃切除後の生活支援 「体験談」

サイト開設」の記事が掲載された。

国際医療福祉大学 2015.8.31 発行 vol.102 に「国際医療福祉大学 IPA - GP チームの活動について」を掲載した。

国際医療福祉大学保健医療学部看護学科平成 25 年～27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(c))研究報告書, 2016. を 458 中規模病院に配布し周知した。

(5) ホームページ運営に関する評価

2014 年 12 月～2016 年 3 月の WEB サイトの訪問者数は 7534 件であった。2014 年 12 月～2016 年 3 月までの WEB サイト訪問者について図 1～図 5 にまとめ分析した。

ホームページ閲覧状況(図 1)では、5 月～8 月にかけて閲覧者が増加している。増加の影響として、私たちの WEB サイトが下野新聞に紹介がされたこと、8 月に執筆した「退院後の生活を見据えた胃切除術を受ける患者の食事支援」の中で紹介したことが考えられる。

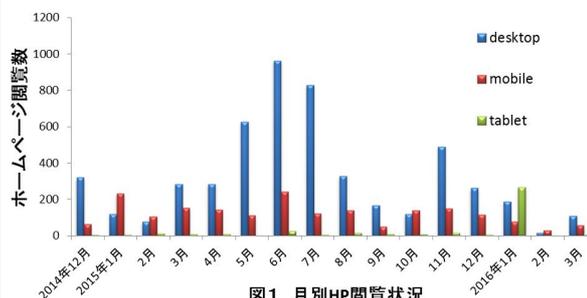


図1 月別HP閲覧状況

ホームページの閲覧が多い時間帯(図 2)は、12 時のお昼休みの時間帯がピークで、就労を終えた 17 時から 23 時頃に増加傾向がみられた。

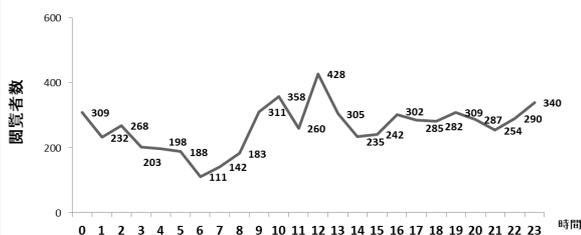


図2 時間帯別HP閲覧状況(2014年12月～2016年3月)

都道府県別ホームページ閲覧状況は、東京都、栃木県、大阪府、神奈川県、千葉県、愛知県など首都圏からのアクセスが多い傾向を示した。

ホームページタイトル別閲覧状況(図 3)では、「情報ギャラリー」「国際医療福祉大学 IPA-GP」「IPA-GP について」「講演会のご案内」「WEB 版サバイバーシップ」の順に閲覧数が多かった。私たちの研究目的と一致したタイトルへのアクセスが多く、がんサバイバーの方々に活用されていた。

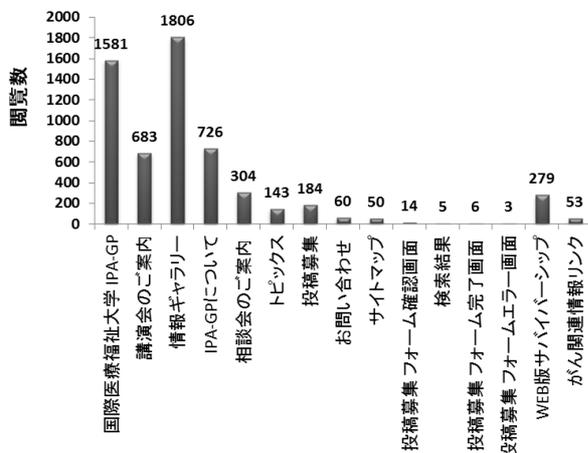


図3 HPタイトル別閲覧状況(2014年12月～2016年3月)

ホームページの「You Tube」による映像では、「胃切除術後の社会生活を楽しむために」「胃切除術後に減った体重を増やしたい」「胃切除術後障害の概要について」「胃切除術後患者の経時的栄養指導の実際」「食事が増えない理由」「胃切除術後のチーム医療」「胃切除術後の嘔吐」「胃切除術後の職場生活に適応するための工夫と課題」を視聴しているがんサバイバーが多かった(図4)。胃切除後の症状や食事への対処とその原因となるメカニズムに関心をもっている傾向を認めた。

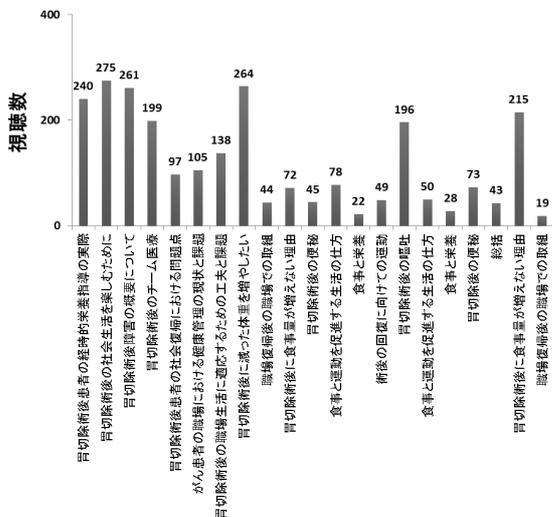


図4 HP You Tube視聴状況(2014年12月～2016年3月)

#### (6) がんサバイバーのホームページ利用頻度とQOLとの関連

現在の調査対象者4名について分析したところ、胃切除術後30日から術後90日目の期間にホームページを利用した数が多い人ほどホームページ利用期間の前後のQOL(EQ-5D-5L)の差が(相関係数0.83)高い傾向を認めQOL向上に影響している可能性がある。しかし人数が少ないためデータ数がそろったところで再度分析が必要である。

#### 引用文献

鈴木 裕,川崎 成朗,大平 寛典他,胃・

大腸手術症例に対する腹腔鏡下手術を用いた5Days Discharge Programは医療の質向上に貢献する、日本外科学会雑誌、2013、114、385

#### (6) 成果全体の考察

腹腔鏡下胃切除術を受けたがんサバイバーの問題を明らかにし、多職種で対応策を検討しWEBサイトを通して情報提供するという試みは他にはない取り組みである。さらにこのようなWEBサイトを看護師が中心になって行っているのも数少ない。

今後は、WEBサイトを多くのがんサバイバーに利用してもらうために、情報発信の工夫とWEBサイトの更新を頻繁に行うことが重要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### [雑誌論文](計1件)

糸井 裕子、落合 佳子、金子 順子、吉田 昌、鈴木 裕、鈴木 美智江、【もつとできる!検査・治療に伴う食のケアや食べられない患者への介入】退院後の生活を見据えた胃切除術を受ける患者の食事支援、消化器最新看護、査読無、Vol.20、No.3、2015、pp.1-8

#### [学会発表](計2件)

糸井 裕子、郷間 悦子、落合 佳子、金子 順子、福島 道子、腹腔鏡下胃がん切除術患者の社会復帰における問題、日本看護科学学会 35 回術集会、2015 年 12 月 6 日、JMS アステールプラザ(広島県広島市)

糸井 裕子、吉田 昌、郷間 悦子、小野崎 美幸、金子 順子、足羽 紀子、上野 美樹、久保田 啓介、黒田 純子、福島 道子、PGSAS と身体的・社会的要因との関連 - 外来における看護師の聞き取り調査 -、第 43 回胃外科・術後障害研究会、2013 年 11 月 2 日、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター、(新潟県中央区)

#### [図書](計1件)

糸井 裕子、国際医療福祉大学保健医療学部看護学科、平成 25 年～27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C))研究成果報告書、2016、78

#### [産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.iuhw.ac.jp/ipagp/index.html>

国際医療福祉大学 2015.8.31.発行、IUHW、  
vol.102 に「国際医療福祉大学 IPA - GP チームの活動について」を掲載

2015年（平成27年）6月7日（日曜日）に  
下野新聞に「胃切除後の生活支援 「体験談」  
サイト開設」の記事掲載

2014年12月6日土曜日、ワークショップ「患者さんとともに社会復帰の支援策を考える」  
開催、国際医療福祉大学三田病院 11階三田ホール

2013年12月14日土曜日、ワークショップ「胃切除術後における食事と運動の多職種連携によるサポート」開催、国際医療福祉大学三田病院 11階三田ホール

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

糸井 裕子 (ITOI, Yuko)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・教授  
研究者番号：20383094

### (2) 研究分担者

福島 道子 (FUKUSHIMA, Michiko)  
徳島文理大学・保健福祉学部・教授  
研究者番号：40201743

郷間 悦子 (GOUMA, Etuko)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・教授  
研究者番号：00248759

鈴木 明美 (SUZUKI, Akemi)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・講師  
研究者番号：20525183

金子 順子 (KANEKO, Junko)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・助教  
研究者番号：40611679

小野崎 美幸 (ONOZAKI, Miyuki)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・助手

研究者番号：00424052

竹中 陽子 (TAKENAKA, Youko)  
国際医療福祉大学・大学病院・その他  
研究者番号：70649772

落合 佳子 (OCHIAI, Yoshiko)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・助教  
研究者番号：70611698

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (3) 研究協力者

吉田 昌 (YOSHIDA, Masashi)  
足羽 紀子 (ASHIWA, Noriko)  
鈴木 美智江 (SUZUKI, Michie)  
原 毅 (HARA, Takeshi)